

繪本
豐臣勲功記

二編

六





繪本豊臣勲功記二編六之卷

目録

北きた攻う木き下げ親お山やま路ぢ彈だま正ただ

屬まが彈だま正ただ真まこと降くだ

後のち田の殿との令の勢ちから水みづ城しろ々々降くだ陣ぢん

屬まが攻う鼻はな還かへ陣ぢん

繪本豊臣勲功記二編六之卷

松永彈正曲水宴毒害室

属 二好弒君

二好松永確執動龍畿内

属 燒大佛殿



倫木書上巻勲功記二編卷之六



江戸 八功舎 徳水刑神

城北攻本右親山路彈正 属 彈正真内

東仁中くも親と遺るりのあり。いそぎ義小にてま君と後おとるりのあり。忠孝に義難とてんべ天神いそぎを人ぞと寄らざらんや。然ハ本中藤吉舟ハ永縁元来の秋中く細く磯田殿小はへまらせ忠信孝義を継く守り姑も通小背りどくと義小事を討しる。自然と立身出陣之十有餘年小信長也。唐澤二列のまこと参らむ。その身ハ河原の城まこと。四郡の税租小縁せらる。其東信孝の義とて後宜らる。然れどに。永縁十來も脱小真を烟を。同十來脱發春を逃下と。其も後小磯田殿をゆる年。徳列小出馬あり。まこと。利きして帰國とて。山崎藤隆と情り厚小征伐とて。まこと。練小や。まこと。

得ぐ出馬と急進延引せし既小今来も春源軍を調練し満是より速小
 出陣す。一、岡神戶の城と一時小臨しとるぬ。春の學と云ふんと神定の序と
 詔あらと一、小中進出く言はしとる。春源軍の城と圍し既小改換りすと
 べんせ山崎が降参しと願ふ小しとる。後、新降陣ありし。渠係君の物と云ふと
 是の遠道の新出陣はと罪と責とあると。十、軍小理ありと。是もまづ言
 岡一使者と遣えし降参延引の我が死と。後、新出馬あらせらる。一、初、如
 くのと駒の君の道理のく、強く且寛仁の沖出法は。六、彼國人候おのら山
 崎陣に備と思む心も出来く。君は、意小降付る。招き、まじり、まじり
 新使者山崎小利解と圍せ、渠係降付と。是も、駒と。新降参せと。入軍と。一、
 ぐらも圍し、城下し、進し。と。要と。小、後、同、玉ひと。おん、使者と。一、
 山崎が返参せき、是も、小、甚と。禮の挨拶と。六、信長、大、小、怒らせ、おひ、今、ハ

行時も猶縁りせと、疾推進て臨つと。同年二月初八日、信長と出軍お
 らせらる。溝引屋引の軍勢小、之甲の加増と都合を、四百、金、強と。一、所、一、
 風、山、掛、の、樹、木、を、括、し、勢、氣、の、虚、空、の、雲、を、渡、せ、射、る、は、早、の、城、り、業、名、ま、う、と
 十二、と、い、ま、う、と、同、小、軍、勢、強、と、續、く、と。者、九、日、の、末、お、入、る、陣、業、名、小、急、陣、ま、し、
 ぐら、龍、門、方、を、出、逢、し、君、の、城、中、(新、降、と、居、ら、ま、は、) 總、軍、勢、ハ、中、小、隙、隙、も
 あり、程、先、滿、ち、勢、の、武、士、と、ま、じ、り、目、を、懼、怖、し、神、魂、消、ゆ、と。一、と、う、ら
 たり、ま、じ、り、と、同、神、戸、八、田、お、り、堅、も、怖、ま、す、と。案、謀、を、推、し、お、東、ら、六、目、お、極、力、
 せん、と、一、手、揃、え、ま、し、引、く、後、勢、と、一、然、後、小、後、同、取、つ、ま、ま、よ、の、選、拔、も、あ、ま、り、
 高、岡、地、攻、落、し、昇、持、小、神、戸、(推、進、) 一、と、揚、ら、せ、と。お、ま、し、と、末、下、秀、吉、君、若、大、軍
 と、勢、さ、せ、と。お、ひ、此、地、を、新、出、馬、ま、し、ま、せ、と。一、彼、之、城、地、は、臨、し、て、新、降、参、と、
 至、と、ん、為、名、勢、小、東、源、一、と、多、く、義、兵、部、量、の、大、軍、を、勢、さ、せ、ま、し、と。一、山、崎、小、降、参、と、



織田殿の大軍勢州
發向
行伍の圖



攻入事の君は清盛光盛の少佐と渠依如きの少人の計ひして真寶小陣
 参るべくは惟只管仁義を示さる終りと數遭練めぬらせまづ軍勢を陽
 しく諸所の城々を攻めあう小見せしむる。是の小方の國人依せ支拂させし給ふへ
 降参させん謀計あり。是位部の城々の関八田安濃津細野の城神戸之國事
 鹿伏鬼國有等へ當向するふと外五百騎六百騎或は千騎と追小野から山
 小も透間をたゆう繫ぎく小隊伍せしむる。諸城一時おせあ起て忽地陷之終
 小も五人をさる。然しく村々津綱士々へ使せしむる利解せし仁義を親く扱
 せられ千種守野赤地稻生の位士候さまもくと降参せしと赤地守陣小ま上し
 魁軍小加えらんと望まざる鐵田殿渠保を厚く款待懇勸せしむる國人のつ
 む感化を所しは皆く大將の如くと候きく小留傳へ國傳へて今いも降人七を
 過さる不穿城殊心やとく。便宜もあつて懼怖を懐き合戦もさる心なる。仍

△は別根平
 村より上草
 旗の出る十
 五村を以て
 州郡小あり

とさる加治田稻田保本下津奈意と集。敵の陣中へ物投流言て調らるる。
 進軍の依るふ角は信長小情まもて加勢の軍を操出。脱小千種守を
 是まで足陣ありしと言簡しむ。此の城々も関八田なり。まもるが小將軍はとも
 今の防衛の位部も志を惘然とて居る。然といふも鐵田殿の軍令を
 かくは指揮ありしは此の進軍も攻めんとす。遠巻くを眼合津く
 諸所の城々も遠巻くを体ある。本下津奈意と動あらせ今こそ頼人の計は
 行ふ時并川東より候小居使算せ給ふ。山崎陣正と親善りさん若少の
 漸陣とて圖小移さる。清盛光盛と志を玉と言詰りまもる。是と許しを
 申ふ本下は僅小後者だ。人なり具。言は津城(安内せり)然しく信長
 かに余余強小く城の四守せし圖とて今一軍小攻後を種威せしを
 まじく。然とも城守更小屋せむ。いづも必死と覚悟し。侍居るる心なる。

本下藤吉郎秀吉城門近き共三倚案内せしむ。弾正面國の寨構小次
 城門外を觀却せむ鐵田の大軍の推進しども遠の麓小招指て僅小入
 の志せざる具し。使者の仕家ありし種漢を能小勝くむらり。彈正心小思ふら
 後令鬼神の勇ありとも僅小入後四入あり。何奈怖る事ありあつし使者と
 関く對面せざるもいと信する小初らうとて。常圖を用て使者を呼寄奉れ小通
 たり。本下信之と登來りし山路を能小別道に導き彈正大小禮せせむ。本下を笑
 く。信小入むとし。路こそ目へきと。海の鐵田の使あらむ。この為小此
 小入り。あつし。一。言も告げせむ。言一。し。このふだ。秀吉我々大國の使將小
 當城守の老志小通り。若し。軍を救せん。この得入。集あ。し。し。は。殺
 せむ。招き。一。言。上。意。を。兼。ふ。し。小。禮。せ。む。と。我。を。侮。り。聲。を。起。さ。る。の
 事。が。や。し。し。小。禮。せ。む。の。當。對。ふ。む。と。一。と。謂。う。敵。自。言。し。し。と。ま。し。れ。と。も。

武士の高位小禮く區々小禮のありしを。彈正自己が剛氣小禮り大國たる
 こととして。自國とて。自國とて。其の民の生命を顧む。強城の徳小背けり
 事の過を知らむ。やと。大言。秀吉。は。も。六。彈。正。猶。も。我。意。を。折。り。我。信。長。小不
 信。なる。も。六。致。禮。と。る。た。所。謂。と。知ら。む。信。長。自。身。小。集。も。も。渠。が。願。と。下。む。と。

我も願と下む。是も小。況や。汝の屋中あらむ。や。我小對し。と。さ。り。の。ふ。あ。ら。む。と。勇
 士の軍。汝と。も。向。の。家。と。ま。ひ。身。を。殺。せ。と。ま。ふ。り。期。し。る。疾。あり。目。の。百。計。の。換
 む。ら。と。悲。ま。さ。る。め。あ。ら。む。と。も。合。戦。の。あ。ら。む。止。む。し。無。ら。と。汝。賢。げ。小。城。守
 の。老。志。を。救。ふ。ん。と。せ。各。の。詞。を。費。を。釋。願。不。當。の。ま。う。り。と。其。の。は。使
 者。あ。ら。む。身。の。死。を。受。ぬ。ら。は。む。此。を。棄。ま。す。一。と。縣。秦。張。儀。の。辭。あり。と。も。を。

我。心。を。動。し。得。ん。や。と。言。語。驚。か。す。事。も。ど。本。下。更。小。怒。を。受。む。と。言。わ。り。や。汝。が
 こと。は。侍。を。切。下。せ。と。い。ふ。も。あ。ら。む。強。く。降。参。を。初。め。せ。と。も。と。戦。つ。

死にん心の随ふ死ねようし我君臣長の奉意する人多くは百姓罪多くて戦
 場の役小苦しゆり目誘死鬼小勾引きて死業小死さるて懸てあか
 軍を懸し玉ふあま仁義後儀ひとるも缺けど汝所ぐや兵濃の徳兵
 渠を道せ罰せん。と軍を雷面あひらるも民一人ども懸しなを是と
 懐てあまのし小籠奥終小民小喜らるる自國を定て他國せり。兵濃
 の諸侍と懸く織田小從仕して遠陣中小来りつるも是は腹痛の武士
 少あらざ。自己が雷氣と愛らんが為小非程小戦死しつるも難うよとく
 稱ふとく人々後軍めて謂ふあらぬと。北高嶺とて汝が足組累代
 せ。懸懸のう人とのふああらざ。神戶が孫小共々。形を軍城せしゆあ
 だ。汝一個死と好とも神が心もも。渠を名の絶る。縁と云
 怖ひあるのど。汝が心と神が心も七さんと。つるや。汝が心も神が

為に懐ふ多し。死見六仇と懐ふ多し。秋心小向く心小懸る。遠義ハ神の
 ろらむ家鹿伏苑因南安濃津勢の城を都て。多勢を遣へ。播
 磨の兵に臨さん。易らるも。夥くの民を益るや。懸えん事の不便小
 と。日ひ軍と懸さる。是もつて織田殿の仁惠信義と。知さる。汝
 當國名義の士中て。懸も心懸の遠謀多し。汝小懸る人もあまじ懸て
 多。汝が家國も。孫小汝が一族も。安泰小汝が民百姓も。喜ぶ道程と。も。懸
 小國を亡し。一族を懸る。民百姓の困し。と。汝が心も。懸るや
 謂えん鬼懸と。謂えん。懐るや。軍神の孫の。世相傳の。名。知。あ。と。懸
 新絶せしゆん事も。目又相續せしゆん事も。共小汝が心も。あ。我君臣と。懐
 と。多。紀道の軍。入。る。て。ね。と。是。非。も。あ。江。列。り。依。る。本。の。和。勢。既。小
 境。と。く。出。張。せ。し。ゆ。江。伸。あ。ま。あ。家。の。軍。勢。彼。は。十。五。金。小。及。了。勢。

秀吉ひでよしととらり
尊岡たかおかの城しろを投なぐ
山路やまぢ弾ひ止とと説とく



大軍の奮發一々炮矢小入名と落と事。猶小悲一とありのむを形了の詞を思
 切小若くも理犯と辨つて。給言ふと親臨さる。彈正心へ情至。膝引小誠と判
 如く。驕汗と流く。所指りし。忽地小不。一。度と謀りて。秀吉と強くと所
 小推請。再び渡く。會まき。小信愚小く。道理小害く。一編の勇小強。自て。家
 國の安危存亡と忘る。然と是下の情導小相く。所縁重雲雲。夏天小見。親
 ること得る。軍城の罪と許さる。なん少い。自家の神戸が心中の望と流
 りふと。并も。神戸真盛ハ女子のふく。男子か。織田殿小も。因。流
 平氏小を。織田園神戸。新と後。多。公達。のその。一方の公と。神
 入河。まふとも當る。所事。の執。小も。あり。道義。を。備。至。小。廣。恩
 こ。小。過。く。と。所。木。小。秋。び。若。若。民。を。安。下。國。を。流。と。死
 事。の。急。せ。ま。小。河。心。も。是。下。の。望。も。速。小。調。べ。い。お。り。と。も。君。一。新

この後あらふ。楚と返言あり。一編本陣へち近り。候を由と謀ら。下とて。
 邊近さうと。彈正と下め。軍城の諸士悉く。城門際まで送り。禮義を
 つく。り。多。様。の。今。朝。小。誓。り。て。意。味。よ。備。本。下。の。本。陣。小。込。り。山。路。が。心。中。缺
 も。み。く。詳。小。言。状。し。と。ま。い。信。長。小。も。喜。悦。ま。り。右。小。左。上。死。小。計。ら。ふ。と
 命。せ。小。秀。吉。ま。り。落。び。入。城。と。山。路。小。逢。河。前。ハ。既。首。尾。調。へ。神。心。心
 中。決。着。し。て。后。心。至。小。り。や。定。む。下。然。は。是。下。が。自。身。小。て。神。戸。の。城。に。び。ん。が
 事。速。小。調。へ。ま。し。登。り。具。盛。が。許。へ。至。り。遠。事。と。く。調。へ。せ。藏。人。と。信。長
 の。陣。へ。表。向。せ。ら。り。や。小。執。量。ま。り。と。重。と。小。下。り。彈。正。心。小。悦。起。小。信。誠。心。を。形
 して。降。参。り。せ。し。と。證。小。遠。城。と。り。是。下。小。信。與。然。と。神。戸。へ。報。り。と。を。岡
 城。と。本。下。小。遊。興。後。者。五。六。騎。と。率。具。と。神。戸。と。と。こ。を。出。小。さ。ま

織田殿令勢北城之保障属故早還軍

山路險ある別へ登るも若く下も困。敵を別々の別へ攻るも難く降すも
 難く。然るに秀吉一語せりて。後石心ある山路を降し。勝を以て用ひて。勢北
 七分せしむ。天神精霊も及ぶるべし。然れども山路険正信を以て神戸飛人
 せ同心をんと。彼城門小別れし。彼人驚き。迎客て来り。縁故を訊く。小弾
 正も名小あふ謀士あり。本下が説命のまふく。せ。理化を明小演り。次小神戸
 の家督せり。同心同流の織田家より。迎へまよし。せ。彼らも小具盛異儀みく
 同心せり。彈正直地小之降り。秀吉小斯と報。彼吉身小随て。信長の陣へ
 参向と。織田殿山路小對面あり。その方國家のこめせ。簡神を以て。初
 めて合神の好と。結をせり。條最神妙の至あり。變多る。神戸を以て。同日。平
 氏の後亂あり。之男せり。神戸小遣。父子の約を堅く。朝ら。永く。一家の縁
 と。結をん。這事小於。別使と。遣ん。小其官。一。執持。ぐ。とい。と。結小命。出。る。

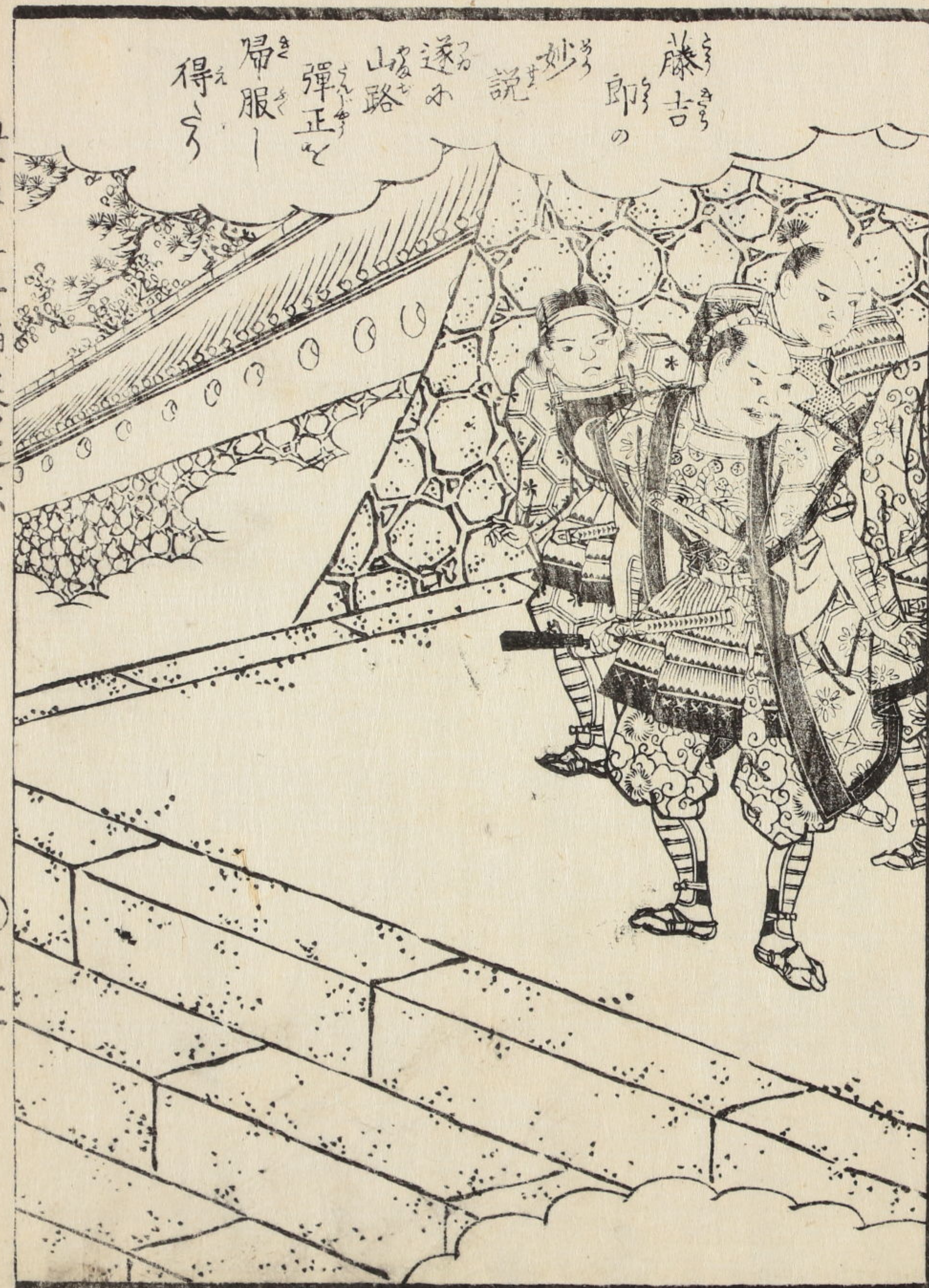
彈正まを。謹で。まぬ。事。の不義。せ。る。漸免。せ。ま。作。緯。榮。友。の。忠。意。と。好
 る。事。小。勿。傳。り。や。之。漸。懇。命。生。世。く。ま。を。忘。ま。せ。し。と。頭。首。と。ぞ。言。は。ま。さ。
 右。左。小。織。田。殿。使。者。せ。り。て。神。戸。の。城。遣。り。ま。は。る。人。こ。ま。小。同。道。一。て。高
 岡。の本。陣。小。免。上。せ。り。彈。正。勇。出。迎。ひ。て。神。戸。を。伴。ひ。河。常。小。出。れ。信。長。初
 對。面。の。式。可。學。小。ま。が。命。せ。ら。ま。る。や。う。の。遠。連。當。國。へ。出。馬。せ。し。事。今。余。他。の
 領。土。を。國。を。侵。奪。せ。ん。の。義。あり。と。只。管。民。性。賦。役。小。疲。も。老。弱。と。一。く。の。飢。渴
 小。困。し。も。初。雅。と。一。く。の。養。育。小。煩。ふ。こ。ま。依。の。緯。を。添。く。醫。を。ま。さ。し。城。を。以。て。苛。政。を
 弘。く。奉。ぐ。貢。せ。若。く。稼。せ。正。道。を。ら。ぬ。と。故。を。ん。為。り。唯。平。念。願。と。る。不。い。天。下
 を。平。を。懐。ふ。の。こ。り。と。ま。方。の。當。國。を。双。の。勇。士。小。と。先。祖。を。思。ひ。不。平。家。と。の。心。し
 き。は。ん。身。あり。の。と。今。天。下。を。謀。を。ま。る。も。戰。國。の。世。と。是。犯。り。死。事。あり。彈
 正。許。り。所。つ。ま。家。督。の。胤。子。こ。ま。を。承。は。し。不。子。せ。り。て。承。を。ま。さ。し。若。ら。ん。あ。ら

岡下平氏といひ。さきも累代の婿妣も心易くかりひ玉うらめ今より心を置てひ
 ぞと尊元仁澤の命を所具盛心中大不教びふとも河津重し。遠よ我
 一族を城を依て招えとて安國府鹿伏鬼等と結とてそ外不縁の侍士
 軍せ遠地明地より呼込へ織田殿の仁義を語らる小づきも遠地同心。打
 渡る信長の本陣小糸向て帷幕の下小祇儀あり。指揮を奉んと望こ
 たるゆへ士を更小動うさて勢小九分を帰仕させうる。小糸山の城を固安
 藤も盛信ハ神宮盛澄。具禮の長女の誓ひまは具盛との親。死中なる小登
 信。後来は別の浦生と角と睦らるまは具盛が勧めを所容と勇小請へ織田
 を授んむ。花人も又の給るこそ。信長小初と誓ひを懸らば大軍と攻む
 小やと亦中小回せとあふと。不く園も遠うらむ。幕中小降る時。弟は渠を信
 園と安濃郡と東らげ玉と。初め小織田殿同玉ひ遠遭降し。國人を先隊と

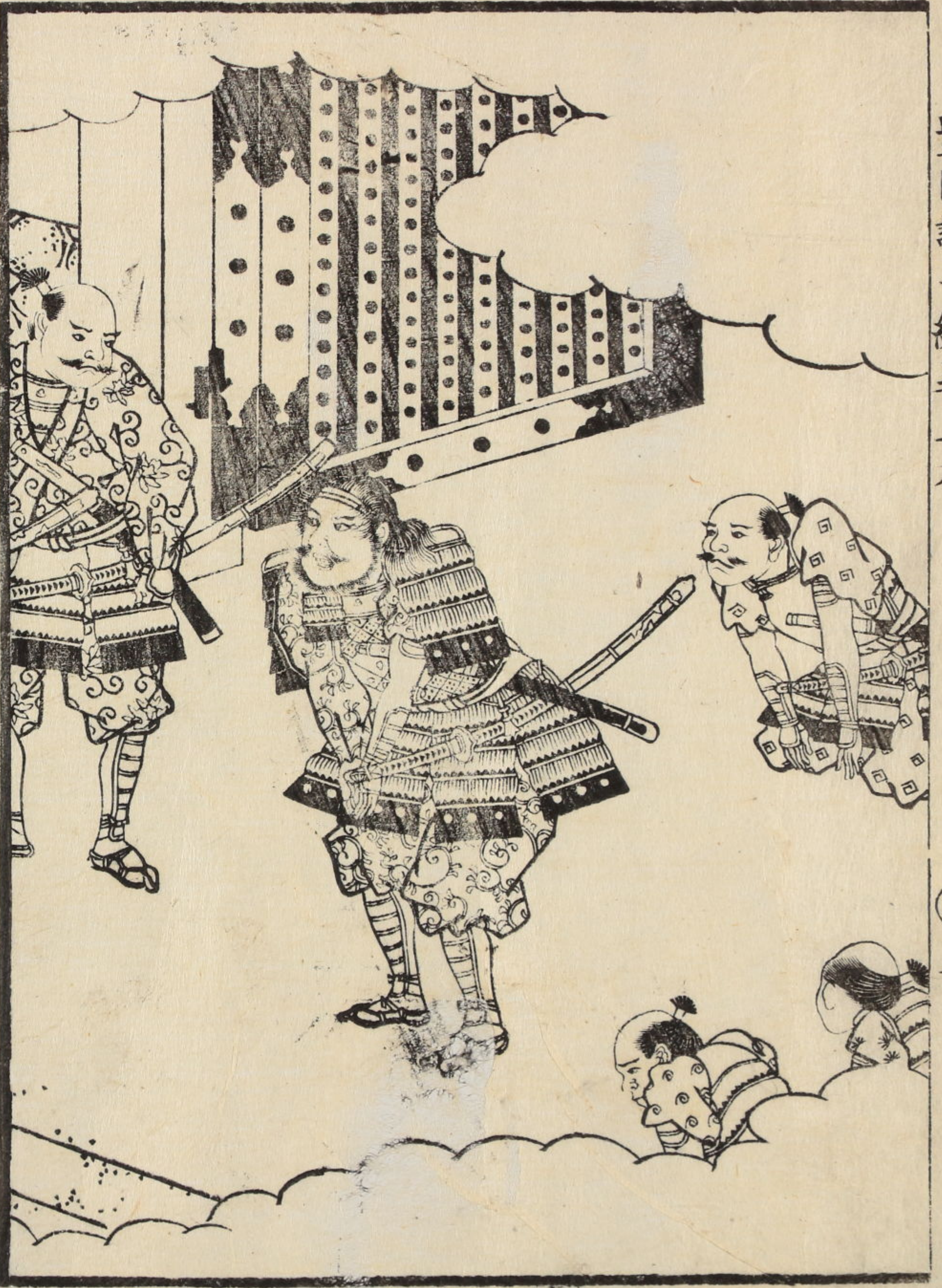
今世に
 伊豆の味
 伊豆の味

一と千人余人安濃津さして推進す。井も遠城を長野とのふ。又藤左と被
 徑の後亂あり。應仁己来國司小属と。當と長野次郎具孫ハ國司具教の二
 男ありしと。長野孫定。子とて家督と。つとて性質弱く。弓馬の道小疎
 うらまは。諸士達と。とて重んぶ。長下の心區々あり。遠遭信長大軍小て
 越北の地と。過半平らげ。方僅ま。當城小推進と。とて軍ハなきを勸と。と
 遠响秀吉。山路と。呼俵謀と。渡りま。弾正と。とて兼所。朋友あり。と。分於
 左系亮政壽が許小引。此政壽とり。人ハ長野の一族。細野九郎右衛門。川小
 内通物。何より。分於山路と。昔より。態切あり。由。由地小遠。不。未。意と
 同。彈正と。勝進と。信長。當國小伐。投。も。決。と。果。逆。礼。始。と。及。と。憐。亮
 と。當。一。理。と。金。と。と。道。小。背。と。と。嘗。と。用。由。事。鬼。休。の。像。と。こ。を。と。教。と。と。て
 戦。と。も。勝。と。と。道。理。更。小。心。極。家。も。初。ハ。進。名。と。ひ。た。う。け。戦。死。と。覺。覚。せ。し

藤吉郎の
妙説
遂に
山路
彈正
帰服
得る



豊日言二後言五六



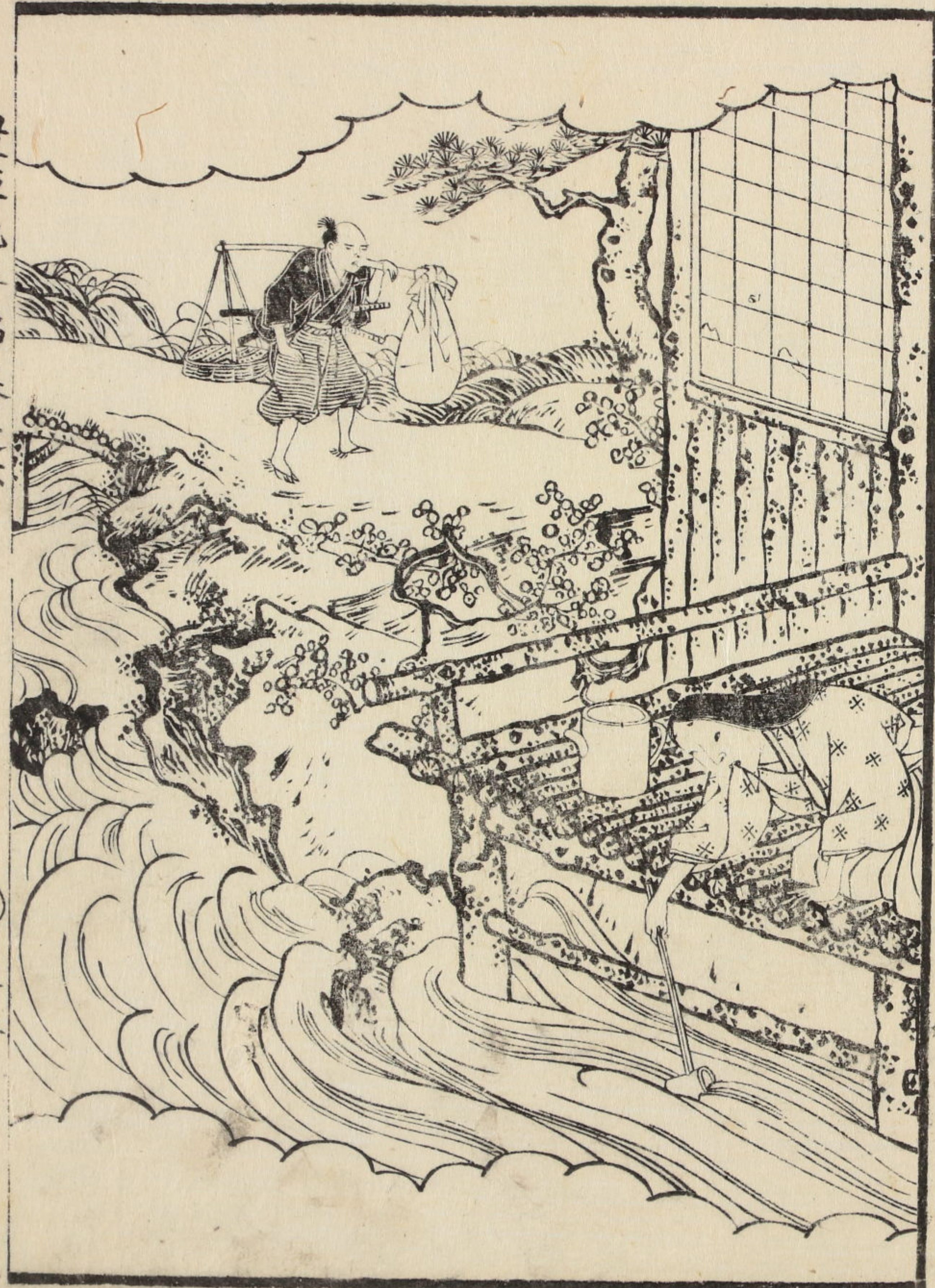
豊日言二後言五六

とも國家と平治一百姓と安穩ならむ理と親と遠小幕下小属
 ころ是小信く信長小も御謀意を思は加ふ加之徹田殿より二男と
 けて神子孫へ養子にして送らさるる是小比々當家と思ふ小長野の
 家の藤原氏少て工藤信光の後亂多と今國司より其子せらるる家督を
 志は縁故也今七びんとさる小高の子息と人切小養子とより徹田殿の胤
 子と請待家督とさる守達多の北高の家亡びとも長野の家は長久多
 且下得心たまきありとあ家の兄川内も勤めとて説ふさまとた系免左
 多く是小同業一の家何人も説せんとも山路強小別まのもまら申見あ川内
 内通助の許小別里。此事と詰らひらるに此人も異なり同業とさる細野小別
 らんそ家別川内より連伴九郎右衛門許小別山路が親と謂ひは細
 野も應へ通る一此外長野の一族も。雲林院出羽守系保重 細野九郎
 右馬の親也

之守 安流形家 兼生公朝小補 同族兼生 乙部倉庫頭 同族乙部の後之孫 中尾内務
 助 安流津の 遠依の門を合神也。山路を許へ案内して徹田殿小孫 錫を遠駒
 分那川小依長野の家督と請ふも信長親及と移らけ至ひ下をたおむは
 神妙あり然らば神子の長子と異種初推の者小て計ひるし予身と送る
 べとて二十舟信也 武藏系信長の子と出。分那川小小村西を長野の家督と
 事を計らさる然れど小長財次舟具孫の原系系孫の性も長野の家督と
 城小溜らね父多國司が許へ逃きて憚るも小依く舟村小信也と送る
 長君と名。長野二十舟と稱しるが頼て上野小佐下らそまの國司の長山
 城之國安流も盛信の一家一族小ひた離さる方儀は別の上角兼頭と稱
 として加勢の事とありひまらる小頼と木下が謀りて津波堂を連進され別
 加勢のさふ小見せしむ北館川山女原形もさるる熊當標を推さる推



義暗公邪賊
 不因められ
 穴生の山中
 疾病と
 悩ませ
 たまふ



河内松津の國人軍二万余人と率從（京都）攻奪りたり。時、九時、時、小將軍を
 守護し、あせらせ、丹波せ、當て、落より、然とも、長慶將軍と、恨し、こゝろ、つら、を、還
 河と、勅め、あせらせ、る、ま、同、月、十、日、河、原、路、あり、が、長、慶、稱、悽、り、止、む、と、鳴
 元と、指、別、及、川、の、城、お、し、こ、め、ま、細、川、の、威、こ、し、と、書、り、明、ら、せ、と、率
 二月、廿、二、日、河、原、名、と、義、輝、と、改、め、ら、む、ひ、あ、事、長、慶、小、任、せ、ら、む、が、長、慶、と
 常、小、を、圍、り、と、京、都、の、事、は、時、從、て、松、永、彈、正、小、執、事、と、せ、ら、む、是、小、より、て
 將軍、家、彈、正、之、秀、と、賞、賜、の、割、り、時、く、教、申、し、出、さ、む、河、原、と、加、ら、む、之、秀
 今、自、己、を、忘、れ、奸、佞、邪、智、の、自、性、を、罷、り、ま、ど、も、臣、逆、せ、ら、む、若、し、も、誠、を
 陰、謀、と、企、て、之、好、が、指、揮、と、言、觸、し、將軍、家、小、對、奉、り、先、禮、不、道、の、事、と
 奉、勅、細、川、一、家、の、人、を、奴、僕、の、像、く、侮、能、れ、言、語、通、致、あり、な、れ、ば、晴、元、入、道
 大、お、悽、怒、し、渠、が、率、り、こ、好、と、ら、我、家、の、被、官、り、其、出、願、を、還、せ、ら、む

小松永早賤の往昔を忘るべきを、能く辱むるに、當歎、土木小修者より、此を
 遠小戒、とん、バ、終、小、國、家、を、恨、れ、せ、り、め、若、臣、法、道、絶、ぬ、と、と、義、輝、公、を
 勅、め、あ、せ、ら、せ、松、永、彈、正、と、謀、せん、と、す。永、謀、元、來、九、月、央、河、内、の、軍、勢、を
 借、從、し、將、軍、山、の、城、小、入、ら、せ、ら、む、が、松、永、响、を、率、り、つ、ま、と、を、身、之、四、五、に、
 大、軍、を、帥、ひ、白、川、を、細、川、が、館、小、推、進、せ、只、一、戦、小、晴、元、を、亦、敗、り、直、地、小、將
 軍、山、へ、弛、朝、ひ、君、を、殺、し、と、ま、川、ら、ん、と、を、長、慶、と、言、し、と、く、は、上、洛、之、之、秀
 と、制、止、し、軍、を、退、し、り、め、こ、好、再、び、出、仕、し、て、將、軍、家、を、宥、め、あ、せ、ら、む、が、永、
 り、も、松、永、と、河、原、睦、の、事、あり、て、洛、中、姑、く、靜、禮、し、り、近、奉、長、慶、多、病、小、一、と、
 他、來、の、事、事、う、り、難、く、と、て、嫡、男、流、石、守、義、長、と、り、つ、て、こ、好、の、は、小、督、と、お、稱、
 せ、り、め、其、身、難、難、入、道、と、名、を、長、慶、と、呼、奉、り、義、長、も、父、の、氣、位、を、又、継、ぐ
 流、り、あ、ら、ぬ、人、を、長、慶、と、呼、奉、り、呼、稱、を、稱、さ、り、つ、て、い、ら、ん、小、の、明、隱、謀、成、龍、の、朝

と見よものぞ唯義長をたふす外小室督と三人おぼす。と竊小心中を決
 せ。後會より流石も義長と流せり。以水福回来二月廿二日。將
 軍お出仕。ひつららぬ河内賞受あり。河内信元の列小加
 とせり。山名一色土波六角武田上杉相の領地河内号と賜り京都小室を
 相川とせ河内信元とせ。命出する。然る小久秀義長小初め西水の眞
 政通と執事とせ。命出する。然る小久秀義長小初め西水の眞
 と罷けさせ將軍お出せ請せしむ將軍のまご。好まぬ成せり。先づ
 是ど河内信元の列ある。河内成せり。河内信元あり。三月二日。好義
 長自館におこそう小室朝。義長と罷せぬ。おぼせぬ。京都法皇。悉く曲水の
 宴小松殿なる。京南亭小松殿。流小室と相觸と罷し。初めは
 人おぼす。詩と吟む。舞あり。發小樂。見たり。新。最中。藤小
 そら。松永。彈正。好義長と罷せんと。毒酒と野。こを

初めて義長と眼帯小害し。同席の諸侯。徳め。こを。情を。世小識。と。い。え。
 松永が威勢烈。思ま。口と。葉む。や。父長慶。小怪。飯森。山。う。
 新。二。小。純。是。守。議。と。い。ども。更。小。實。事。を。知。り。や。悲。
 歎。小。と。あ。り。ら。ぶ。お。督。と。い。ふ。あ。と。い。ふ。と。評。後。と。と。弾。正。久。秀。十。河。氏。が。
 大。捕。一。の。種。の。子。左。京。右。義。継。と。い。ふ。お。後。と。と。い。ふ。と。初。む。長。慶。純。
 も。こ。小。隨。十。河。が。長。子。義。継。と。い。ふ。好。の。家。督。と。い。ふ。あ。り。め。筑。前。守。小。任。も。後。
 領。代。小。さ。と。い。ふ。後。の。い。ふ。と。と。松。永。が。權。威。十。倍。を。然。も。義。継。力。微。小。
 と。あ。ま。を。制。止。と。す。事。あ。り。と。心。苦。く。過。ら。る。が。永。祿。七。年。七。月。四。日。長。慶。
 病。小。狂。と。い。ふ。六。十。三。歳。と。一。期。と。終。小。歸。空。あり。小。室。小。因。と。い。ふ。好。家。督。と。い。ふ。人。
 衆。と。呼。ぶ。と。い。ふ。好。日。向。守。長。總。同。下。野。中。政。泰。長。成。之。稅。助。好。通。連。小。松。と。執。
 事。小。義。継。の。あ。り。と。い。ふ。也。都。松。永。が。計。い。ふ。と。と。人。危。ま。と。い。ふ。と。城。と。心。中。常。



足利家の
運籌を
滅して義輝
公御殿死
の圖





南都一乘院と
 落る
 覺慶と
 相佐と
 長岡
 藤孝
 專忠



長岡
 藤孝
 專忠

軍を軍田の余路をさしつけり。長岡を都大補藤孝（ままは和川郡の中野村にて是は播磨守元常といふ）号は勅
 きたてまつり。いづれも一と援けをあらせんと種々上支を回らせし。松列石山を頼守へこ
 好之人の海軍師を以てし。時人等宥めんと大急小事を討らひし。小光依上之軍
 なく。諸き三人を競りて。好の評決を多くして軍の進退決着せし。長岡令が
 所時をもや。南都小到りて守護せんと藤孝獨情を地小一を院へ送交り。系路の
 強動を以てまつり。いづれも一と好の報告。純朝をんこと必死を以て一編遠山を
 藩させし。藤孝一個所信と。若草山と。越させし。其より。芝置は岩洞へ
 薨り。即列矢島小藩をい。和回信智多惟政の許へ入所させたまはる。皆松永の
 覚慶を敵とまつらんと。勸まごも三人をこれ小一月せを事延引小乃び。一兵秀又
 小務。今他人の援助の用ら。我門より起る。と南都へ報告せ向り。小覺
 慶南都小おし。まご。何方へ逃さる。後ふ。所行決を知り。あ。一。是。小。岡

△若草山一
 其目之を
 の中あり
 山を四
 あり

て松永謀正之人衆を深、恨、此密謀を漏せし。も、この人もあらん。此は
 渠依ハ情まじと。河内信人高山清常言政を其擁らひ。三人を以て誠
 して自己一個小柄を執り。畿内之政勢を知らず。と思ふ。小一人元も。好義
 継と入將と。四國の將佐を致さむ。好山城を康長（長慶の親父）條原右
 系進（細雲）子依と一隊小多。河波の所新より松永退治の所書せ請
 受大軍のりて臨取らんと。泉列櫻（推慈）松永と合戦し。る。又秀大
 小殿北して多門の城へ引退く。明き。永祿九年の春。ま。向水列して軍
 小。其小至くと戦。松永再と亦負。既小方便の事。る。小。や。其
 の。之。好家と信。和睦せ。こ。小。信。合戦の。来。止。も。
 三人元の強者。信。以前小。を。人。を。桃。敵。の。事。の。多。り
 松永の。喜。も。あ。と。難。ひ。と。り。然。小。河。波



松永の逆意
こゝ小強乗て
南良の
大佛殿を焼く

